

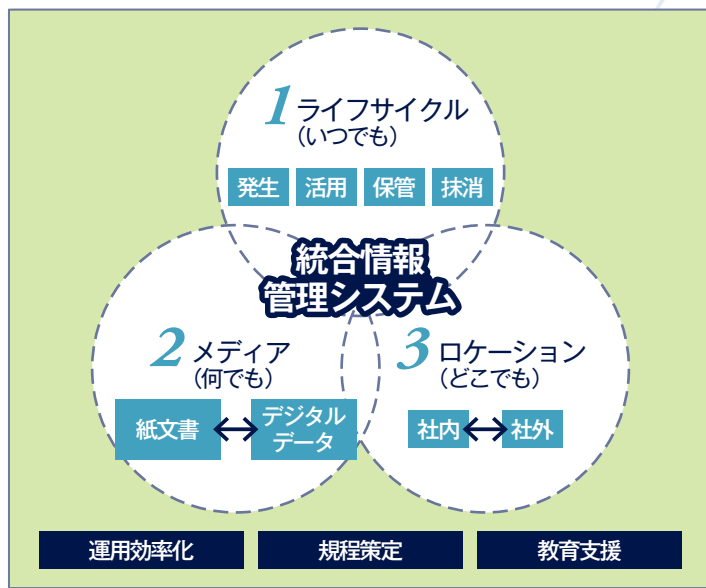


ワンビシャーカイブズ 執行役員
営業本部長
池田直人



ワンビシャーカイブズ 執行役員
情報サービス本部長
山口正

総合情報マネジメントサービスのコンセプト



- 1** ライフサイクル (いつでも)
発生 活用 保管 抹消
保管・保存だけでなく、情報の発生時点から整備し、活用頻度の向上につなげる。また期日を設けて不要になった情報は安全・確実に抹消する。
- 2** メディア (何でも)
紙文書 leftrightarrow デジタルデータ
申込書や契約書、販促資材といった紙文書だけでなく、記録メディア、システムデータ、ファイル、メールといったデジタルデータの管理もサポート。
- 3** ロケーション (どこでも)
社内 leftrightarrow 社外
社内(本社、各拠点、関係会社、場合によっては取引先も)、外部(ワンビシの情報管理センター)に保管する文書をシームレスに管理する。

“情活”を制すれば“ビジネス”を制す 情報資産の効率的活用

ワンビシャーカイブズ

“安全管理”から “効率的活用”へと進化した 総合情報マネジメントサービス

企業・団体の情報資産を取り扱うプロフェッショナル、ワンビシャーカイブズが長年培ってきた経験やノウハウを生かして新しいシステムを構築した。メディアや場所を問わず、シームレスに情報資産を管理する仕組みを提供して、顧客のワークスタイルの変革を支援する。

災害対策をはじめとした事業継続性の確保や内部統制への対応といった社会的な要請を背景に、ここ数年情報資産の安全管理に対する企業のニーズは高まっている。そうしたニーズに応えるサービスを展開しているのがワンビシャーカイブズ(以下、ワンビシ)だ。

ワンビシでは書類の保管・集配、電子化、機密抹消など、紙媒体に関するサービスだけでなく、自社のデータセンターによるオンラインバックアップなども提供する。情報資産管理アウトソーシングの最大手として取引実績は企業や官公庁など約4000社にも上る。そのワンビシが提供する「総合情報マネジメントサービス」が、このたびに進化した。

紙とデジタルの情報をシームレスに管理

執行役員営業本部長の池田直人本部長は説明する。「当社はお客さまからお預かりした紙とデジタルの情報を安全に管理するノウハウを蓄積してきました。そこからさらに活用のステージへと進化させたのが総合情報管理システムです。このシステムでは、あらゆる情報

は原本で情報管理センターから取り寄せたり、その情報がどこにあり、誰がいつアクセスしたかなどを記録したりといったことも可能だ。情報の形態や保管場所を問わず、シームレスな管理を実現する。

特に製薬業界や自動車をはじめとする製造業にとっては待望のシステムといえるだろう。例えば製薬業界では開発や製造に関する膨大な書類・データを管理することが法令で義務付けられている。紙とデジタル、社内と社外をまとめて管理できる仕組みがあれば、業務効率の向上だけでなく監査対応や訴訟対策としても有効だ。

執行役員情報サービス本部長の山口正本部長はこう指摘する。「企業ではPL法をはじめさまざまな訴訟リスクを抱えています。訴訟に備え、速やかに情報開示できる体制を整えている例は少ないようです。訴訟が起

きてから、ホテルの会場を借りて大量の段ボール箱を運び込み、人海戦術で書類を探すというケースもありました。書類の山の中から目的とする書類を過不足なく探し出すのは困難です。必要な情報がどこに、どんな形で保管されているのか、すぐわかるような仕組みを持つことが大切です」

ワークスタイルの変革をサポート

情報共有の面でもこのシステムは強みを発揮する。現場の担当者や、企画書や資料などを自分のPCやキャビネット内に抱え込む例はよくある。統合情報管理システムを利用すれば、社員は有益な情報を即座に探し出せるようになる。情報の「見える化」が実現し、暗黙知の共有化が進めば、企業競争力の強化にもつながる。

ワンビシがこうしたサービスを提供できるのも、培ってきたノウハウや基盤があるからだ。「当社の書類・記録メディアを保管する情報管理センターは、全国12カ所にあり、大都市圏から60キロ以上の距離を置くなど、災害を考慮した土地・地盤に設けています。また、自社のデー

情報資産の安全管理のために対策が必要なリスク・環境の変化

1 法律制定・改正 法律の制定・改正に対応できない場合、社会的責任が問われるのは…	2 紛失 大事な書類やデータをどこにしまったかわからない…	3 天災・事故 地震や津波、火事や停電といった災害に万が一、被災してしまったら…
4 ヒューマンエラー 業務のプロセスが、間違いがなく正しく遂行されていることを第三者に対して証明できますか？	5 機密漏えい 不正アクセスや持ち出しに対して、組織的に対策が取れていますか？	6 誤廃棄 大切な情報が、誤って廃棄されてしまったら…
7 属人化 担当異動、定年退職時に情報資産が継承されなかったら…	8 改ざん・偽造 誰が、いつ、その情報にアクセスしたか、記録をさかのぼることが出来ますか？	9 劣化 経年による書類や記録メディアの劣化によって、次世代に大切な情報が伝えられなくなったら…

の発生から活用、保管・保存、抹消に至るライフサイクル全般を統合的に管理し、かつ情報のアクセスコントロールやトレーサビリティにも柔軟に対応できる仕組みを提供します」

例えば金融機関などで、契約申し込みはネットからデータで受け付け、本人確認書類だけは郵送で受け取るケースがある。従来なら、契約データはサーバーに、本人確認書類はバインダー

などに入れキャビネットに保管し、別々の仕組みで管理されていた。

統合情報管理システムでは、データと書類をひも付けて一元的に管理する。社内でも1年保管した後はワンビシの情報管理センターへ移動し、顧客の契約が終了したら情報を抹消する、といったライフサイクル管理も確実に行える。また、現場で必要となった情報をデータもしく

◆問い合わせ先
株式会社ワンビシャーカイブズ
〒105-0001
東京都港区虎ノ門 4-1-28
虎ノ門タワーズ オフィス
TEL 03-5425-5400 (経営企画部)
http://www.wanbishi.co.jp/

タセンターも保有し、災害などの緊急時にメディアや書類を運ぶための集配車も常備しています。紙とデジタル、両方を取り扱っている当社にしかできないサービスだと思えます」(山口本部長)

真の意味で情報の活用を実現するには、管理・運用のルール作りや、業務のやり方そのものの見直しが必要になることもある。ワンビシではこうした課題に対するコンサルティングも実施している。

「統合情報管理システムはあくまでもツールです。このツールを使い、当社の経験や専門性を用いて、お客さまの情報資産の安全確保とワークスタイルの変革をお手伝いしていきたい」(池田本部長)